

2015年12月10日

上海における食品関連イベントについて

愛知県上海産業情報センター
安田 龍

1 上海における愛知県フェア

中国本土は2014年末時点の人口は13億6,782万人と世界一の市場規模で、日系企業にとって非常に魅力的な市場であります。また、日本の中国向け農林水産総額は、2011年に東日本大震災の影響で358億円まで減少しましたが、その後は毎年回復傾向にあり、2014年には約622億円となっています。これは、日本食品は安心かつ高品質であると認識されており、また、増加している中国人富裕層を中心に需要が高まってきていることが要因であると考えられます。

一方で、食品分野においては、輸入可能な生鮮食品が限定的であることや、産地証明書や放射性物質検査証明書が必要である等の制度的制約、通関手続きに時間を要するため賞味期限が短い商品は取り扱いが難しいことや、参入のための初期コストや関税・増値税等による価格競争力等の物流や商習慣の違いなど、中国市場を開拓するために多くの課題が存在しています。

そのような中、11月4日から17日まで上海にあるアピタ金虹橋店において、愛知県食品輸出研究会主催による愛知県フェアが開催されました。

上海における愛知県フェア開催は、2013年1月以来ですが、今回は愛知県食品輸出研究会が主体となって民間主導での開催となりました。

今回のフェアにおいては、(株)金トビ志賀、尾張製粉(株)、マルサンアイ(株)、(株)浜乙女、(株)まるや八丁味噌、コーミ(株)、(株)角谷文治郎商店、(株)トーカンの合計8社が出展し、各社からきしめん、味噌、あんかけパスタソース、みりん等多くの商品が出品され、試食品も提供しながら来場した中国人客にPRしていました。

また、フェア期間中の11月7日と8日の2日間、「あいち戦国姫隊」が演舞を披露して武将観光を紹介するとともに、愛知県の歴史や産業に関するクイズを出題し、正解者にはフェアで販売している商品をプレゼントし、愛知県フェアのPRを行いました。今回の愛知県フェアは、アピタ金虹橋店における日本のフェアの中では、北海道、九州に次ぐ売上となり、特に中国では国慶節と春節の間で商品が動きづらい時期の中、良い成果をあげることができたと思います。



【愛知県フェア会場の様子】



【あいち戦国姫隊によるPR】

2 食品関連展示会情報

次に、11月に上海で開催された食品関連展示会を2つご紹介したいと思います。

1つ目は、11月11日から13日まで3日間、上海新国際博覧中心で開催された「FHC CHINA 2015」になります。こちらの展示会は、今年で19回目となるアジア地域最大級の食品総合見本市であり、JETROも今回で7回目となるジャパン・パビリオンを設置し、日系企業を取りまとめており、愛知県内企業も3社出展していました。また、地方自治体では、広島県が県内企業17社を取りまとめて広島県ブースを設置し、積極的にPRを行っていました。

2つ目は、11月26日に世博創意秀場で開催された「ぐるなび上海10周年戦略共有サミット」になります。こちらは、今年で創立10周年を迎えたぐるなび上海が主催しており、外食産業に携わっている企業52社が出展していました。また、上海市餐飲料理行業協會と提携し、会員企業に招待状を発送して飲食店経営者や料理長を誘致することにより、直接交流できる場を提供する展示会となっています。展示会の規模としてはそれほど大きくありませんが、来場者の質が高く、出展企業からも高く評価されています。

両展示会ともに、B to Bが中心の展示会となっており、今後上海を中心とする華東地域での市場開拓を目指す企業にとっては、一度視察や出展を検討する価値があるのではないかと思います。

上海産業情報センターでは、今後も中国における食品市場について、情報提供していきたいと思います。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。
上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。
本情報の採否は読者の判断で行ってください。
また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。